

【事業協働運営先】
一般社団法人 千代田まちづくりプラットフォーム(まちプラ)
メッセージ

私たち「一般社団法人千代田まちづくりプラットフォーム(まちプラ)」は、税金によらない市民提案型のまちづくり活動の助成事業である「千代田まちづくりサポート(まちサポ)」を、公益財団法人まちみらい千代田と協働で運営を行っています。この千代田の「まちサポ」を「地域コミュニティ」とともに発展させていきたいという思いから、活動グループのOB・OGや歴代の審査会委員が中心となって結成されたのが私たち「まちプラ」です(2016年6月設立)。2020年で20周年を迎える「まちサポ」では、これまでの143組の助成グループに加え、応募グループも含めた実に多くの方々とのつながりが生まれてきました。こうした仲間とともに千代田のまちづくりをさらに進めていくことが「まちプラ」の役割です。まちサポの「サポート」はじめてみませんか?一緒に活動してくれるメンバーを募集しています。

問い合わせ chiyoda.machiplatform@gmail.com

賛助会員一覧

法人会員

| | | | |
|--------|---|---------------------|--|
| 建設業 | 株式会社 楠山設計 株式会社 久保工 株式会社 竹中工務店 一般社団法人 東京都建築士事務所協会 千代田支部 株式会社 ナカノフード建設 株式会社 日昇緑化研究所 パシフィックコンサルタンツ 株式会社 | 不動産業 | エヌティティ都市開発 株式会社 住友不動産 株式会社 東京建物 株式会社 プラットフォームサービス 株式会社 三井不動産 株式会社 三菱地所 株式会社 安田不動産 株式会社 |
| 製造業 | KKテクノロジーズ 株式会社 瀬味証券印刷 株式会社 東京スクリーン 株式会社 株式会社 日精ビーアール ノーラエンジニアリング 株式会社 株式会社 ハセツパー技研 ハネクトーン早川 株式会社 富士ゼロックス 株式会社 株式会社 ムレコミュニケーションズ | サービス業 | 株式会社 i-tec24 株式会社 弘周舎 株式会社 こどもの館 株式会社 翔設計 |
| 卸売・小売業 | 鈴木治作 株式会社 鈴新 株式会社 株式会社 つばさテクノ 株式会社 トキワ 株式会社 ユニフォームネット | その他 | 株式会社 アズーム 株式会社 イサミヤ 有限会社 エイアイ企画 株式会社 コンベンションリンケージ 株式会社 住宅あんしん保証 株式会社 TALO都市企画 一般社団法人 千代田区観光協会 東洋美術印刷 株式会社 NPO都市住宅とまちづくり研究会 日産緑化 株式会社 株式会社 バイオレンジャーズ ピヨンドネクストアカウンティング 株式会社 株式会社 フィレール 一般社団法人 マンション管理組合支援センター 株式会社 リブリッジ 株式会社 ワンスイン 合同会社 グローバル人材育成サポート |
| 情報通信業 | 株式会社 メディアリンク | 個人会員 | 池 俊郎 加藤 武夫 小林 誠 佐藤 直樹 瀬川 昌輝 立山 光昭 戸田 豊重 堀部 剛正 ほか6名 |
| 金融業 | 株式会社 きらぼし銀行 神田中央支店 興産信用金庫 西武信用金庫 神田支店 みずほ信託銀行 株式会社 | 法人: 57 個人: 14 計: 71 | |
| 保険業 | 株式会社 FEA ぜんち共済株式会社 日新火災海上保険株式会社 東京事業部 東京西支店 | | |

※助成金の一部は賛助会員からの賛助金が活用されています。

千代田まちづくりサポート通信 No.35 発行 2020年10月

発行者 公益財団法人まちみらい千代田 協働まちづくり・総務グループ(まちづくりサポート事務局)
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4階
https://www.mm-chiyoda.or.jp TEL 03-3233-7556 E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp



まちサポ特設サイト

この冊子は環境にやさしいFSC®森林認証紙を使用しています。

千代田まちづくり サポート通信

2020 OCTOBER ISSUE No.35

2020
10
OCTOBER



PICK UP !

旧旅館「東館」
秋葉原・旧旅館【東館】内ちよだニャンとなるCafé
香取章子さん／古川尚美さん

千代田まちづくりサポート(普請部門)の助成金とクラウドファンディングで調達した資金でグループメンバーの拠点である旧旅館東館(あずまかん)の一部は整備・改修されました。地域の交流拠点として活用されているほか、「譲渡型保護猫カフェ」としても運営されており、グループメンバーは保護猫のお世話に日々奮闘しています。

※本誌発行時点では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により休業中

| | | |
|------|--------------------|----------------------------|
| 【目次】 | P1~2 事業・審査会概要 | P3~15 応募グループの概要・審査会委員のコメント |
| | P16 会長総評・まちサポトピックス | P17~18 活動マップ |

Chiyoda No Machisapo



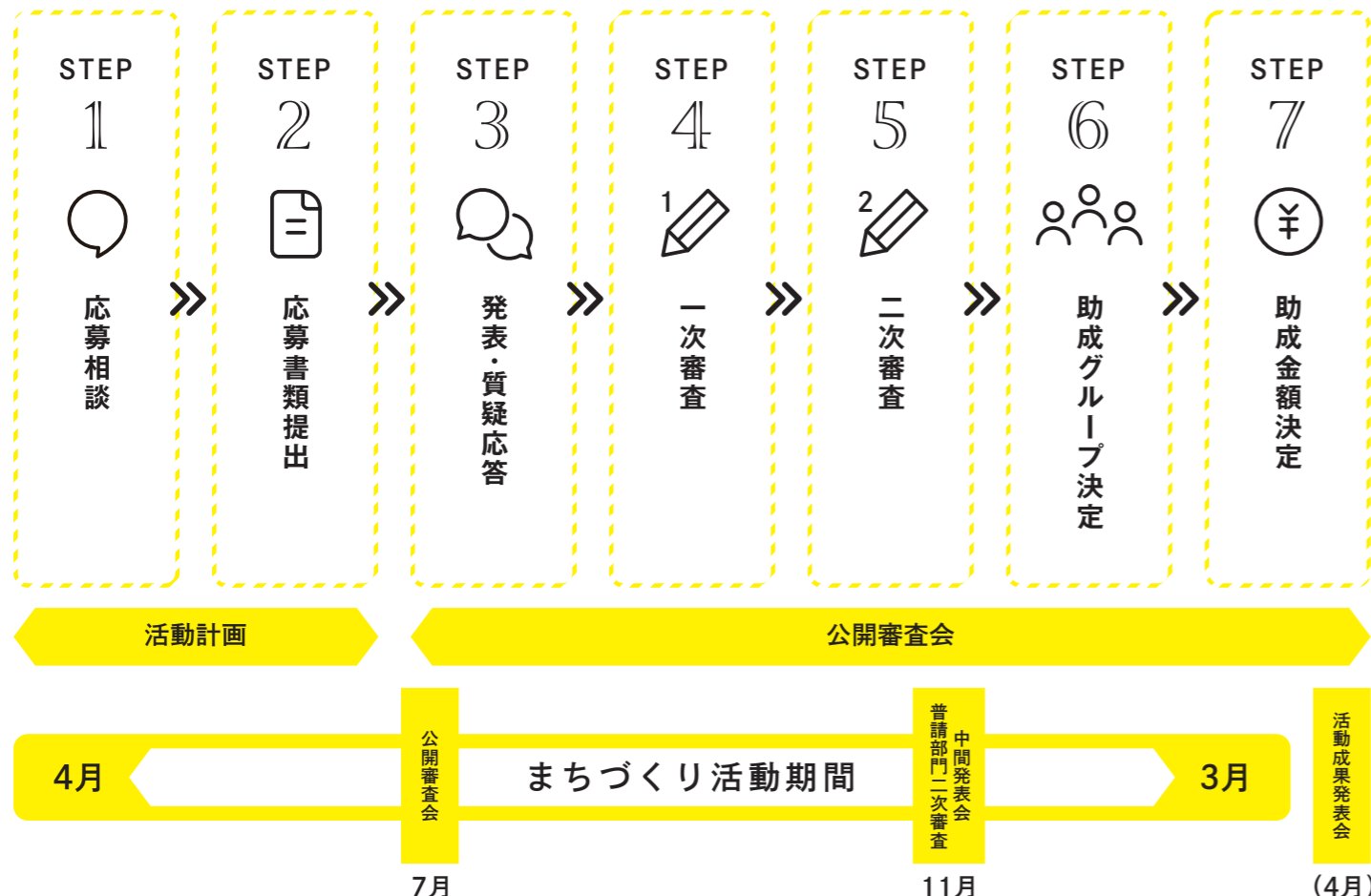
千代田まちづくりサポート(まちサポ)は、千代田区内で自主的なまちづくり活動を行っているグループに対して、その活動経費の一部を助成する事業です。

本号では、第20回千代田まちづくりサポート公開(助成)審査会のプロセスを紹介しながら、千代田のまちづくりの「いま」を伝えます。

まちづくり活動が多様化する中、本年はアートやデザインの分野から新たなアプローチがありました。



Process 公開審査会(一般部門)のプロセス



第20回 千代田まちづくりサポート公開(助成)審査会

【開催日】 令和2年7月19日(日)
【会場】 ちよだプラットフォームスクウェア5階(一般には非公開)
【内容】 応募グループの活動発表とそれに対する質疑応答・審査を行い、助成グループと助成金額を決定した。今回は新型コロナウイルス感染防止のため、発表は事前に提出された映像で行い、質疑応答と審査は「Zoom」を活用して開催した。なお、審査会の様子は応募グループメンバー向けに「YouTube」で限定公開として配信した。リアルとオンラインで、さまざまな機器を駆使したはじめての審査会となった。

概要

| | | |
|---------------------|---------------------|-------------------|
| 【応募グループ数】 13グループ | 【助成グループ数】 10グループ | 【助成金額総額】 287万円 |
|---------------------|---------------------|-------------------|

【第20回の募集部門】

- はじめて部門(1年間のみ)一律5万円
はじめたばかりのまちづくり活動に対して助成します。
- 一般部門(最大3年間)5~50万円
継続して自立を目指すまちづくり活動に対して助成します。
- 普請部門 最大500万円
空き室等を改修して活用するまちづくり活動に対して助成します。

【審査基準(一般部門)】

- ①千代田区内における市民の主体的なまちづくり活動 | ②地域に元気をもたらす、コミュニティの活性化に貢献する活動 | ③住み・働き・学びやすく、魅力的な都市環境づくり活動 | ④まちづくりに対する新しい視点である活動

【審査の流れ(一般部門)】

- ①発表・質疑応答 | ②一次審査 [発表と質疑応答を踏まえ、審査会委員が一次審査表に記載された各項目のいずれかに赤色・黄色・青色のシールを貼る。それに基づき、審査会委員が追加質疑を行う。] | ③二次審査 [各審査会委員がもっている5票を「活動を支持するグループ」へ投票する。4票以上の票を得たグループが助成対象となる。] | ④助成金額の決定助成対象となったグループの申請額を精査し、助成金額を決定する。

【審査基準、審査の流れ(普請部門)】

- ①有用性(地域の課題認識など) | ②拠点性(開かれた運営体制など) | ③創造性(先駆的モデルの提案や新たな活用を生み出す取り組みなど)
- ①発表・質疑応答 | ②追加質疑・審査 | ③一次審査通過グループ決定 [「活動を支持するグループ」へ投票する。過半数を得たグループが一次審査通過となる。]

Program

| | |
|-------|---|
| 9:40 | 開会 |
| 10:00 | 【一般部門】活動企画内容の発表① 発表・質疑応答(各グループ10分) |
| 11:10 | 【一般部門】活動企画内容の発表② 発表・質疑応答(各グループ10分) 【はじめて部門】 活動企画内容の紹介(各グループ8分) |
| 12:10 | 休憩 |
| 13:10 | 【普請部門】活動企画内容の発表 発表・質疑応答(20分) 追加質疑・審査 一次審査通過グループ決定 |
| 13:40 | 【一般部門】審査の主旨と解説 |
| 13:50 | 【一般部門】一次審査 |
| 15:00 | 【一般部門】二次審査(助成グループ決定) |
| 15:40 | まちプラからのお知らせ |
| 16:00 | 【一般部門】助成金額の決定・発表、審査会委員講評 |
| 16:30 | 事務連絡 |
| 16:40 | 閉会 |



審査表

| 部門 | 回数 | 応募グループ名 | 一次審査 | | | 二次審査 | 申請額 (万円) | 助成額 (万円) | |
|------|----|---------------------------|----------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|-----------|-------------|-------------|----|
| | | | 活動内容を支持し、今回のサポート助成が必要だと考える | 活動内容についてももう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要か判断したい | 意義ある活動内容だが、サポート助成の趣旨にはなじみにくいと考える | 活動内容を支持する | | | |
| 一般 | 3 | 江戸長唄ごひいき衆 | ●●●●●●●● | | | ●●●●●● | 34 | 34 | |
| | 2 | ちよとも | ●●●●●●●● | | | ●●●●●● | 49 | 45 | |
| | 2 | グリーンネイバーフッド千代田を目指す会 | ●●●●●●●● | ●●●●●● | | ●●●●●● | 36 | 36 | |
| | 1 | サンサン会 | ●●●●●●●● | ●●●●●● | | ●●●●●● | 10 | 0 | |
| | 1 | 神田でパンダ | ●●●●●●●● | ●●●●●● | | ●●●●●● | 50 | 48 | |
| | 1 | ちよだ番町一丁目一番地(呼称:パンチョウイチイチ) | ●●●●●●●● | ●●●●●●●● | | ●●●●●● | 49 | 0 | |
| | 1 | ねじの回転 | ●●●●●●●● | ●●●●●●●● | ● | ●●●●●● | 50 | 0 | |
| | 1 | スプーン・プロジェクト | ●●●●●●●● | ●●●●●●●● | | ●●●●●●●● | 50 | 49 | |
| | 1 | 「着がえる家」実行委員会 | ●●●●●●●● | ●●●●●●●● | | ●●●●●●●● | 50 | 50 | |
| 普請 | — | 優美堂再生プロジェクト実行委員会 | 活動内容を支持する | | | ●●●●●●●● | 11月に実施 | 10 | 10 |
| はじめて | — | M. Alive Place | | | | | | 5 | 5 |
| | — | トナリ | | | | | | 5 | 5 |
| | — | ドコヒロ隊(DoCo22を広めよう隊) | | | | | | 5 | 5 |

01

江戸長唄ごひいき衆

三味線の音が響く粋なまちづくり

長唄をきっかけにつながる、広がる



【代表者】津守 恵子 【活動メンバー】10名 【主な活動地域(場所)】千代田区立九段生涯学習館

活動概要

オンライン稽古・リモート合奏のほか、長唄に詠み込まれた情景解説と演奏(江戸の物見遊山、江戸藩邸を探る、駿河台今昔等)の動画作成を行います。また、オンライン講座を配信し、地域交流のきっかけづくりやコロナ禍での魅力発信や観光資源の掘り起こしを模索します。



発表概要

江戸東京の伝統や文化を知る機会として、江戸長唄を通じ、江戸・東京の伝統や文化を知る機会、街に親しむ機会をつくることを目指して活動しています。なぜ長唄がコミュニケーションツールになり得るのかという、長唄には、大勢での合奏による迫力・一体感を得られる特性があり、また、グルーブレッスンで互いに教えあうなど、いろんな世代の方がつながることが期待できるからです。長唄に詠み込まれた江戸・東京の歴史や習俗を学んだりすることで、その地域に愛着を持ち、根をおろすきっかけとなると感じています。

今年度は「withコロナ禍のコミュニティ課題と活動をつなげる」を目標に、主に3つの活動を検討しています。1点目は、オンラインとリアルを組み合わせた発表機会を設けて、オンライン稽古やリモート合奏を行いたいと思っています。具体的には三味線のリアル体験やLINE上での画像共有を行います。2点目は、リアルでやっていた講座を動画等のオンライン講座とし、それを配信します。3点目は、こういった活動を通じて、withコロナ禍の住民課題を検討し、課題解決を実践することを考えています。具体的には、デジタルデバイドの解消、自粛下での高齢者フレイル予防などを実践したいと思っています。

審査会委員のコメント

はじめての応募以降、着実に活動のステップを重ねてきたことにあらためて感心しました。体験やお稽古を軸に、地域の歴史や文化にふれる企画との組み合わせが定着、活動参加者の中には地域への関心や愛着が芽生え始めているとのこと、何よりの成果だと思います。さらに、海老原商店や神田明神境内での(しかもプロレスのリング!)演奏など、まちサポグループと互いの強みを引き出した企画も魅力いっぱいでした。今年度は新型コロナウイルスの影響が続き、オンラインや動画配信にトライなさるわけですが、自分たちのこだわりを大切に、三味線の音を介してつながる人の輪を広げていってください。



審査会委員
朝比奈 ゆり

02

ちよとも

千代田で楽しくつながり創り

楽しく/承認しあう/安心の場



【代表者】高橋 孔明 【活動メンバー】9名 【主な活動地域(場所)】千代田区高齢者総合サポートセンター・かがやきプラザ 相談センター

活動概要

毎月1回多世代交流の場としてオンラインによるイベントを中心に「ちよとも」を開催し、区内在住者や在勤者に新しいつながりを生む場を提供していく。また、年代・性別・国籍を問わない多世代交流の場を提供するとともに、ちよだにつながる情報も提供します。



発表概要

ちよどもの良さをwithコロナの時代にどう出すかという疑問にぶつかりました。しかし、この悩みはちよともだけではいけないのではないかとこのところに行き着き、答えがわからないからこそ、受け身ではなく、攻めのちよともを実践していこうと思いました。リアルの集まりがダメなら、オンラインの良さを徹底的に追求し、さらにITが苦手な高齢者を助けながらオンライン活動をサポートしていこうと考えました。また、オンラインに向けて、ちよともを3分間で説明できる動画を制作し、ちよともがどんな団体なのかを多くの人たちに知ってもらいたいと思っています。さらにオンラインでのファシリテータースキルを身に付けていきたいと思っています。また、気付きのきっかけになるようなイベントをたくさん開催していきたいと思っています。それをほかのグループと共有して、より強いつながりを千代田区で作っていきたく考えています。ちよともが千代田区のハブのひとつになることを目指して活動していきたいと思っています。

審査会委員のコメント

ちよどものギアチェンジはとても爽やかに映る。これまで交流活動のテーマは、参加者が「次は何にしようか?」と話し合う中で決めてきたそう。みんなの好奇心がエンジンになって輪が広がってきた。現在、コロナ禍の影響で思うように集まることができないが、オンラインとなって受け身から攻めに転じるということである。オンラインだからこそ可能なコミュニティづくりに挑戦する、その根幹として「笑いの連鎖、幸福の共有、共通体験の大切さを思う」という考え方を据えることができたのもこれまでの実績の賜物だと思う。コミュニティのあり方が問われている時期に、その意味を掘り下げる重要な取り組みである。



審査会副会長
奥村 玄

03

グリーンネイバーフッド千代田を目指す会

withコロナの中、千代田からサポートが必要な人たちも参加できるイベントを発信する



【代表者】林 昌明 【活動メンバー】4名 【主な活動地域(場所)】日比谷公園など

活動概要

千代田区内で五感が違う人たちが参加する自然観察会を開催します。事前にレクチャーできるものはZoom、Web等を活用して、当日の接触を減らします。また、当日の参加者のサポートルールを事前に構築します。



発表概要

私たちだけでなく、どのグループも「with コロナ after コロナ」の新しい形を求めている中、私たちの事業も新しい活動の模索が必要になってきました。これまで、写真のようにイベントの参加者同士が自然に肩を貸し合い、車いすを押してサポートができるようなイベントを目指して活動してきました。過去にまちサポの助成を受けている「みんなで作る街づくり推進協議会」と協力して、これまで4回イベントを行っていますが、前は40名近くの方の参加があり、キャンセル待ちも出ました。今後もイベントを継続させるための工夫として、第1に、講師を増やし、1名あたり5名程度として密を避けようと考えています。第2に、事前にWebでレクチャーをして、当日の密をできるだけ避けようと考えています。第3に、イベントを主催する人向けのマニュアルを作成して、イベントを主催する方等に動画で共有しようと考えています。

また、2021年のパラリンピックの開催は不透明ですが、パラリンピックの趣旨を踏まえたイベントも開催しようと考えています。この機会に千代田のアクセシビリティを発信し、千代田に多様な人々をさらに呼び込むことができたらと考えています。

審査会委員のコメント

まちサポの多様な助成グループの中であって、身近な自然環境に目を向けようという活動はたいへん貴重だと思っています。これまで開催したプログラムでは毎回新たな気づきに出会ったとのこと、足元の小さな自然の力もさることながら、参加者に寄り添った企画だからこそと思いました。今年度は一歩踏み込んで、専門家集団であるNPOに企画からとも関わってもらおうとのこと、グリーンネイバーフッド千代田を目指す会の持つ良さを企画に盛り込んで、魅力アップした会が開かれることを期待しています。



審査会委員
朝比奈 ゆり

04

サンサン会

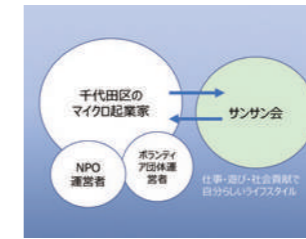
人生100年時代の第3ステージを3分割(遊び、仕事、社会貢献)のライフスタイルで楽しく！



【代表者】及川 浩二朗 【活動メンバー】7名 【主な活動地域(場所)】富士見区民館など

活動概要

定年後に地域活動に参加したくても地元の町会などの地縁組織への参加はハードルが高く容易ではありません。特に富士見地区では、マンション住民の地域活動へのニーズが高いと考えます。そのような中で長年、会社・団体に勤務してきた人たちが「充実したシニアライフスタイルを語り合える場」を提供します。



発表概要

昨年度は「生き方を変えるライフシフトを実践する」をテーマに2回イベントを実施しました。今年もこの活動を継続したいと考えています。しかし、今年度はたくさん人が集まるイベントは難しいので、Zoomに挑戦したオンラインによるイベントを開催しようと思います。イベントが4回できればいいかなというイメージです。前回の活動から4か月ぶりにコアメンバーが集まってミーティングを行い、この状況だとオンラインでやるしかないということになりました。しかし、メンバーの中にまだZoomを使ったことがない人がいるため、使い方をレクチャーしてから実施しようと考えています。これが軌道に乗れば、リアル・オンラインを組み合わせたいイベントをしたいと考えています。また、概念的なことです。千代田区に根ざした起業家やNPOの運営をする人が交流する場として、このサンサン会のイベントを提供したいと思っています。もう少し活動の幅を広げて地域貢献ができないかということ意識して進めていきたいなと思います。

Q & A

- Q ホームページに記載されている「やんわりと社会貢献をする」という言葉が好きで自分の心に響いている。サンサン会の方と交流するにあたって、メンバーの経験や意見を参加者にアピールできると、自分から接点を持つきっかけになると思う。
- A 若い起業家は、起業するとどうしても一人になってしまい、相談する相手もないようだ。特に規模が小さいとそういう傾向かなと思っている。サンサン会のメンバーは定年退職した人が多く、長い経験と知見がある。起業家の若い人たちとベテランの知見は相性がいいと思っている。

- Q 設立の目的と活動のターゲットをどのように考えており、今後は広げようとしているのか。また、参加者の活動の推移はどのように捉えているのか。
- A 2年半前に区のコミュニティ総務課主催の「ちよだコミュニティラボライブ」に参加し「定年退職して地域となじまない人もいる」ということから活動をスタートした。また、地域の活動をしない人も参加してもらおうことが、健康面でもプラスになると思ってははじめた。コアメンバーはあまりかわらない。少しずつ増やしたいと考えている。

審査会委員のコメント

2018年2月から活動を開始され、数回のイベントを繰り返す中、「サンサン会」の地域貢献活動について、着々とイメージ形成されていると思われます。仲間的な活動と地域のまちづくりとの接点を起業家への間接的なサポートへと結び付け、これから取り組まれるものと理解しましたが、審査会ではどのようなメンバーが、どのようなサポートを実施するのが、やや不明瞭な印象がありました。他のグループとコラボするにあたって、「サンサン会」の目的が明確になると、参加者等への連携効果がさらに発揮されるものと感じています。起業家(経営者)にとって、経験・知見のある意見を得られる機会は必要であるため、継続した活動を願っております。



審査会委員
吉田 渉

05

神田パンダ

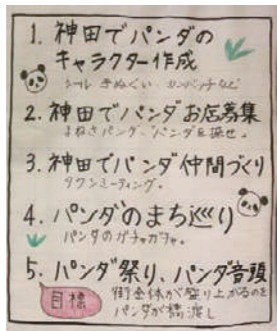
「神田でパンダ」
神田のまちをパンダで盛り上げよう



【代表者】石垣 曜子 【活動メンバー】8名 【主な活動地域(場所)】神田錦町キンキン広場、神田警察通りなど

活動概要

“STAY HOME”によりマンション住民の方々は地域の絆の重要性に気付き、地元企業の方も地域への責任を感じていると思います。その中で、パンダというイメージキャラクターを作り、遊び心をもって街のさまざまな場所に広めることによって、神田の街を盛り上げます。



発表概要

今、神田の街はコロナの影響で以前のような活気が失われています。一方でSTAY HOMEやリモートワークにより、今まで当たり前だった、自分の住まいや働く場所の周りの地域が自分にとっていかに大切な場所なのかに気が始めています。私たちは神田の街を神田に関わるすべての人たちと再び盛り上げていきたいと考えてこの会を立ち上げました。

それではなぜパンダを選んだのかを説明します。一昨年、神田の広場にパンダの遊具を置いたところ、ネットで大ブレイクし、27万人ものリツイートがあり、テレビにも取り上げられました。この人気をコロナで停滞している街の起爆剤にできないか考えたのが、パンダを選んだ理由です。今年度の活動ですが、1つ目はキャラクターを作成し、シールや手ぬぐいなどを作ります。2つ目は招き猫ではなく、招きパンダをお店に置いて、「パンダを探せ」のマップを作って、お店巡りができるようにします。3つ目はタウンミーティングなどを通じて、仲間を増やしたいと思います。4つ目はパンダの街巡りです。パンダのガチャガチャをお店の店頭に置くなどして、家族でも街巡りを楽しめるようにしたいと思います。一過性のイベントではなく、年間を通じて楽しみたいと思った時に自由に神田でパンダを楽しめるようなそんな環境を整えたいと思っています。

審査会委員のコメント

パンダの遊具がある場所は審査会場から近いこともあり、審査員全員で現地確認を行いました。椅子のほかにパンダの遊具がボツと1つだけ置いてある、何とも言えない空間に私も引きつけられ、「神田でパンダ」の語呂についても頭から離れませんでした。審査会の当日、活動に携わる方々の熱意も非常に印象的で、コロナ禍中、「何とか街を盛り上げていかなければならない」という皆さんの強い想いを感じました。すでに地域の方との連携もあり、神田の歴史・文化・芸術を学び、神田の未来を想像する企画を考えられていることも非常に楽しみです。町会を超えた人のつながり、まちづくりを期待しております。



審査会委員
吉田 渉

06

ちよだ番町一丁目一番地

(呼称：パンチョウイチイチ)

番町・麴町界隈にゆかりある作家を通して、
古きを知り、街を再確認



【代表者】原 真善美 【活動メンバー】5名 【主な活動地域(場所)】番町エリア(番町文人通り、カフェ・アマルフィ)

活動概要

番町(一番町から六番町)を中心に、麴町界隈に住んでいた作家(文人)に注目し、その人物の足跡をたどり、映像・地図を使いながら、古きを知ってほしい。それを文学作品や朗読、お芝居によってわかりやすく伝えます。



発表概要

2020年の前半は新型コロナウイルスの影響によって、文化芸術に関する活動ができない寂しい世の中となりましたが、人々の豊かな精神の形成には文化や芸術が必要であることを今改めて感じています。そこで私たちは、まちづくりの一つとして地域に関連した文化芸術の発信を提案します。特に麴町や番町界隈の文人ゆかりの地に注目しました。そこで、文人の作品の朗読や一人芝居を六番町の「カフェ・アマルフィ」で開催したいと考えました。また、文人ゆかりの地を巡るまち歩きについては、三密を避けるため、事前に作成した映像をご覧いただくと思っています。例えば、小説家の夏目漱石の門下にある内田百閒、彼が書いた番町の暮らしが出てくる「ノラヤ」という作品に出てくる猫「ノラ」の役を私が演じながら、レポーターとして皆さんに楽しんでいただけるような映像を作りたいと考えています。そして、地域の皆さんとの交流も含めて、楽しいイベントにしていきたいと考えています。

審査会委員のコメント

番町・麴町界隈にて「文人」たちの足跡を掘り起こしていこうという取り組み。ユニークなのは提案者がこの地域の喫茶店で一人芝居を行ってきた経験のある役者さんであるという点で、今回も参加者で芝居をつくりあげていきたいという意気込みが伝わってきました。芝居づくりを通じて、参加者は主体的に「文人」、そして地域に関わりを持つことができるというのは、素晴らしいアイデアだと思いました。ただ、残念なことに、コロナ禍で肝心の芝居づくりへの参加が難しくなっていました。この事態への対応策がまだ十分に練られていないようでした。引き続き検討を進められて、来年、もう一度、応募していただければ幸いです。



審査会会長
中島 直人

07

ねじの回転

区民館等の文化情報プラットフォームの提案



【代表者】 田頭 亜里 【活動メンバー】 3名 【主な活動地域(場所)】 麹町区民館、千代田区立九段生涯学習館

活動概要

区民館と同様に文化的活動(講座・イベント等)を開催している九段生涯学習館での取り組みを先行事例として分析します。また、区民館で導入できる情報機能の可能性について検討し、地域まちづくりと連動した区民館プラットフォームの在り方に関する提案として実証的ウェブサイトを作成します。



発表概要

私たちは区民館などの文化情報プラットフォームの提案に向けた活動を行っています。この活動の背景としては、現在、区民館での文化活動の多くが区民にとっては把握しづらい状態になっていることです。区民館の文化活動を知るには、実際に区民館に足を運んで掲示板を見てみないと活動状況がわからない状態です。すでに区民館では多様な文化的な活動が行われているので、これらを「見える化」することで、多くの区民へ、企画・運営・参画を促すことができると考えました。具体的な活動内容としては、区民館と同様に文化活動を開催している、九段生涯学習館での取り組みを先行事例として分析します。そこから、区民館で導入できそうな情報機能の可能性を検討し、地域まちづくりと連動した区民館プラットフォームの提案としての実証的ウェブサイトを取りまとめる予定です。九段生涯学習館の先進性は「館内における活動内容がウェブサイト上で検索できる点」と「英語・オペラ研究会などのオンライン運営」がすでに行われている点です。これらのコンテンツを活用しながら、デモ版としてウェブサイトを作成して、区民館および各関係者の意見を聞きながら更新しようと思えます。

審査会委員のコメント

一般的に区民館は活動場所として部屋を貸してくれる施設だと理解されていると思う。それらのコミュニティ施設の目的は「コミュニティの交流を深め、ふれあいを促進すること」である。そこで、ねじの回転の皆さんが、参加したい活動を探している区民にとっての情報、利用者同士が交流するための情報、特に区民館の活動が地域づくりにつながるような情報を編集し、「区民目線の活動紹介」を進めることはとても大切だと思う。行ってみたいけれど戸惑っている区民、利用している区民からはどのような声が上がっているのか、地域のまちづくりへの波及効果についてどのようなことが考えられるのかを具体的に検討する、これからの活動が楽しみである。



審査会副会長
奥村 玄

08

スプーン・プロジェクト

おしえて！世界のおうちごはん



【代表者】 原田 つぐみ 【活動メンバー】 6名 【主な活動地域(場所)】 インド大使館など

Designed by Freepik

活動概要

各国大使館からの協力を得ながら、東京で暮らす外国人コミュニティとの連携を図り、近所で気軽に参加できる国際交流の場づくりを目指して活動を行っている。また、食という誰もが毎日関わるテーマを起点として、大人も子どもも楽しめる学び、地域と世界とが深くつながるきっかけを提供する。



発表概要

「教えて世界のおうちごはん」と題して子どもたちを食から世界につなげるイベントで活動を始めました。今年度はwithコロナ新しい生活様式への対応として、コンセプトは引き継ぎながらも、食と学びを融合させたオンライン授業として学校現場にも見合うよう活動をパワーアップさせていきたいと思っています。今、食卓や食そのものに注目が集まっています。また、先月文科省は地域社会との連携を図りながら協力的・探究的な学びを実現すると発表しました。ここで示されたオンライン授業の方向性に絡めて、私たちの活動も弾みをつけたいと考えています。今年挑戦したいことは「食の力で世界をつなげる」というビジョンはそのまま、大人も子どもも楽しめる学びのプログラムを提供することです。そして「スマートフォンで世界を想像できる気軽さ」をテーマに、中学生をメインターゲットとした参加形式のコンテンツを考えています。具体的にはインド大使館と連携して企画を進めていく予定です。次のステップとして、来年度から実施される新学習指導要領です。これらをプログラムの目的に掲げ、千代田区と世界をつなげていきたいと思っています。

審査会委員のコメント

生きていくうえで「食」は必要不可欠なものであり、時に「幸せ」を感じさせてくれます。そんな「食」をテーマに「手のひらサイズの学びを食卓から世界へ、そして地域をつなげる」というコンセプトのもと、誰もが気軽に参加し、つながることができるという楽しい企画です。今回のオンライン授業により、親子で「食育」の学びはもとより世界に興味を持ち、さらにそこで「新しい気付き」「自分から考える力」を子どもたちに得て欲しいと思います。また、子どもたちが興味を持っているオンライン授業を見据えての展開も期待が持てます。次はこの国、どんな料理・文化と出会えるかが楽しみです。



審査会委員
小野寺 健志

09

「着がえる家」実行委員会

海老原商店での装いとコミュニケーションをテーマにしたワークショップ「着がえる家」の実施



【代表者】 穴戸 遊美 【活動メンバー】 3名 【主な活動地域(場所)】 海老原商店(神田須田町2丁目)

活動概要

「生活と装い」「住み開き」「新しい古着屋」をキーワードに、来年度の「東京ビエンナーレ2020/2021」会期中、新たに「海老原商店」で期間限定の住み込み型のプロジェクトを展開する。具体的には、(1)常設展示(2)ワークショップ(3)店舗という3つの要素でプロジェクトを行う。



発表概要

私たちの活動は海老原商店での装いとコミュニケーションをテーマにしたワークショップ「着替える家」を実施することです。舞台となる海老原商店は千代田まちづくりサポートの助成を受けて改修した看板建築です。今回海老原商店と出会い、その建物のたたずまいと歴史・物語に感銘を受け、コミュニティアートを通じた神田の歴史と人々の新たな関係性を育むコミュニティづくりを考えました。この活動は私たち実行委員会と海老原商店・地域の方々に参加によって取り組んでいきたいと考えており、メンバーでもある美術家の西尾美也さんがキーマンとなっています。西尾さんが今まで取り組んできた衣類や家族に関係するさまざまなワークショップを今回の活動テーマとしています。今年度の活動では「感覚の洗濯」、自分たちで服を作る「ちびっこテーラー」、料理と服のリメイクを掛け合わせた「いただきます」というワークショップを行うことを計画しています。活動の様子は来年7月に「東京ビエンナーレ2020/2021」という芸術祭で広く発表する予定です。それ以降もいつでも新しい人が参加できるように情報発信を行いながら活動を継続していきたいと考えています。

Q & A



Q 3年目に美術家の西尾さんが抜ける予定になっているが、その後の活動メンバーについて何か考えはあるのか。また、継続的なワークショップの開催には主要メンバーは不可欠だが、そのあたりはどのように考えているのか。

A メンバーに関しては、海老原商店の近隣住民や在勤者を今後の活動の中心に引き込んでいきたいと考えている。私たちが今まで千代田区内でのアートプロジェクトをさまざまに取り組んできた経験があるので、その中で関係を構築した人に協力を要請する。

Q メンバーの西尾さんが抜けたあとは、地域の方と一緒に育っていくというプロジェクトと解釈して良いか。

A 継続性については、西尾さんが抜けたときが一番課題である。活動をおもしろがってくれる人たちが3年間で集まることを想定している。その方たちが西尾さんからヒントを得て、つながっていくのが一番良いと考えている。

Q 参加者をひきつける秘訣があれば教えてください。

A 会話やコミュニケーションが大切だと思う。西尾さんのプログラムは体感した時に感じる魅力が非常に深く強く心に残るので、体験者がまた体験したいと感じ、その体験を誰かに伝えたいという思いが育まれて、さまざまな人を引き寄せていると考えている。

審査会委員のコメント

衣服の役割は体温調節を助けるものだが、そこにカラー、デザイン、生地などにより本来の用途だけでなく地域の文化や芸術性、歴史そして産業に大きく関わる要素が含まれる。服の歴史を紡ぐ地域に根差してきた服店を舞台に、高齢者やお母さん方のボランティアと子どもたちの交流を通じて、歴史を学び、現在・未来へ向けた自由な発想で物事を生み出していくことを目指した企画にとても意義を感じる。本企画は他団体である東京ビエンナーレのプロジェクト開催に向けたプレ事業である点も興味を引く。活動を通じて複数のグループが合同でイベント開催することはありがただが、企画の段階でしっかりと立てつけがされていることに応募グループの意気込みを感じる。この企画が機運となり、まちづくりに前向きな人材の確保と継続生のある活動につながることを期待している。



審査会委員
柿内 健介

10

M. Alive Place

住民主体のワークショップを通じた、千代田の都市空間活用の実践



【代表者】 北村 駿季 【活動メンバー】 13名 【主な活動地域(場所)】 神田エリア

活動概要

大学のサークルで検討した都市空間活用の企画をもとに、住民が主体的に設置物(ストリートファニチャーなど)の制作過程に関わるワークショップを実施し、千代田の都市空間、公開空地で実践する。企画は、学生の自己満足ではなく、住民が主体性を発揮する内容を指す。



Q & A



Q 公開空地を使うことや都市空間を活用することは手段なので、目的が何であるかが重要である。具体的には公開空地を活用して、地域課題をどのように解決したいと考えているかイメージがあれば教えてください。

A 公開空地自体の活用事例が少なく、これからの分野だと考えている。エリアマネジメントも大事だが、それは運営側の話であり、より地域として空間を使っていくことを考えると管理側ではなく活動団体が加わるのが大事だと思っている。

発表概要

私たちは日本大学理工学部のみちづくりサークルとして活動を行っています。空間活用や多世代の交流、まち歩きを活動の中心としています。また、まちづくりに関する活動を企画し、実践することを活動の軸としており、年齢や分野を問わず適切な情報共有の場を形成することで、多面的な空間的思考力や企画行動力を養うことを目的としています。応募の背景としては、昨今の社会情勢は都市空間の価値や使い方を見直す機会となったと考えています。都市の公共空間を人と都市をつなぐ結節点として捉え、まちに対しては良好な都市環境を整える効果、福祉的・社会的効果・地域経済を支える効果があり、人に対しては楽しむ場所・思い出を持つ場所・ストレスを軽減する場所としての役割があると思っています。具体的には都市の空間活用の企画を立て、都市空間で実施します。そして効果検証をアーカイブ化し、持続的な都市・活動にすることを目指しています。住民とともに実践することで既存の都市空間の機会損失を減らし、社会・経済・環境を豊かにすることができ、住民みずから都市空間について主体的に考えるきっかけになると思います。

Q まちづくりとして考える場合は大きな枠組みも大事だが、具体的に地域ごとの課題を見据えて、それに対して答えられるような取り組みを企画できれば地域の方も賛同すると思う。大学だと制度とか大きな話を議論できると思うが、その一方で地域に根差した活動をぜひ目指してほしい。

A わかりました。ありがとうございます。

Q 公開空地を介して住民が主体性を発揮できるようにすることを目指したいということは何度も話していたので、それを大事に思っていると感じた。これから地域との関わりが始まる段階と考えていいか。

A そのように考えている。

審査会委員のコメント

都市における憩いの場等の公共空間として役立てられるべき公開空地の空洞化が問題となっています。この問題を解決するためには、まず、その存在を地域住民に認識してもらうことが大切です。公開空地の場で地域の学生が主体となってワークショップを開催するこの試みはとても斬新だと思いました。この企画が若者のエネルギーによって再びまちを輝かせるきっかけとなるよう願っています。また、地域住民を巻き込んだ人的広がりのある活動、学生の一過性で終わらせないイベントに発展していけるよう期待しています。



審査会委員
菊池 洋光

11

トナリ

こどもワークショップ
「こどもか いぎ わたし たち で つく る まち」



【代表者】 曾根 博美 【活動メンバー】 9名 【主な活動地域(場所)】 アーツ千代田3331

活動概要

トナリはアーツ千代田3331の中にアートスタジオを開設し、人をケア・サポートするアートの場の創出を目指している。プレスタートにあたるこの活動は、自分たちの住む千代田区エリアについて、子どもたち自身が思い考えている意見を聞き取っていく。さらに仕事・自然環境・生き物・交通・建物・学校などについて考える基地を提供し、実際に描画・工作でまちをつくる。



Q & A



Q 応募用紙に加えて、発表を聞いたことで活動イメージが具体的に。2年目、3年目の展望があれば教えてほしい。
A 子どもたちから出てきたビジョンを具現化するところまでは考えておらず、今後はそれも視野に入れて活動したい。

Q 小学生がメインターゲットということで良いか。
A 小学生がメインになると思う。

Q 小学生ならではの目線というのがあると思う。子どもたちの疑問を表現できる場が少ないのですごく良い機会だと思っている。屋上緑化などがはやっているが、なぜそれが必要なか、都会にあっても地球温暖化の問題を考えて取り組んでいる建物が増えていくべきだなと気付かせてあげられる機会になればいいなと期待している。そのようなことも考えて活動してほしい。

A わかりました。逆に質問になってしまうが、子どもたちの意見を千代田区に伝える機会を作ることは可能か。

Q 千代田区役所が窓口になる。子どもたちは学校で学んでいることに、創意工夫を加えたものがあれば、提案により実現性が増して良いと思う。

A ありがとうございます。

発表概要

トナリは20代から60代のメンバーを中心に1年位前から活動の準備をしてきました。この秋からアーツ千代田3331の中にアートスタジオを作り、そこで人をケア・サポートするプログラムを行っていく予定です。今回はそのプレスタートとして子どものワークショップについて助成を申請しました。全体のミッションは、表現体験を通じて個人のレジリエンス(※)を高め、何か危機的な状況があっても回復できるようにするという事です。私の個人的な体験・経験としてアメリカでメンタルヘルスセラピストとソーシャルワーカーをしていた。長年のプログラム作りの中で、コミュニティと結びつくことやアート・表現を多面的に導入することで個人のウェルビーイング、メンタルヘルスの向上に貢献することを知った。その経験がこの活動につながっています。フォーカスしたい部分としては、自分とは違う考え・行動する人に対する寛容さを表現・体験による関わりの中で養いたい。また、子どもワークショップは子どもにまちづくりをしてもらい、その中でまちという表現システムを子どもなりに理解できるということを目指しています。そこから造形教育の先の愛情教育といった大きい意味での教育につながると考えています。

(※)ストレス耐性

審査会委員のコメント

長期的なビジョンで考え、行動し、カタチにしていくことは子供たち世代の興味や理解が必要になってくる。街の身近なところを知り、疑問や課題を共有していくことで主体性も芽生え、未来に向けた活動につながると思う。例えば便利さだけでなくアクセシビリティや自然環境にも配慮した、すべての人が住みやすく働きやすい街になるよう着眼点を共有してもらえたらうれしく思う。また、子どもたちを通じて家族やコミュニティのつながりを考えることは、継続性を持たせることによって地域の活性化へ貢献する事業となる。さらにグループメンバーが多世代・異業種の方で構成されている点も興味深い。集合住宅の住民が増える中、コミュニティ活性化の必要性が課題となっているが、コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しつつ、無理のない範囲で活動して欲しいと思う。



審査会委員
柿内 健介

12

ドコヒロ隊

(DoCo22を広めよう隊)

千代田区内でも迷わない！
みんなで喫煙所とトイレを見つけられる
地図共有アプリを作り上げよう！



【代表者】 喜納 飛鳥 【活動メンバー】 3名 【主な活動地域(場所)】 千代田区全域

活動概要

千代田区内の喫煙所・喫煙ができるお店をアプリに登録してMapを完成させ、多くのユーザーに広めていきます。また、「喫煙ができるお店」を掲載し、「チラシの設置に協力してくれるお店」も探していきます。さらに千代田区内にある公衆トイレも登録します。



Q & A



Q 千代田区は路上喫煙防止ということでさまざまな施策を展開しているが、今回の活動を通じて喫煙所の場所を情報発信して、喫煙者而非喫煙者の共生に寄与してほしい。また、千代田区の公衆トイレは建築的にめずらしい建物もあるので、そうした特徴を画像で発信してもらえるとありがたい。

A わかりました。アドバイスありがとうございます。

発表概要

私の周りに喫煙者が多く、今年の4月から東京都で受動喫煙防止条例が出て、屋内が原則禁煙となり、お店はもちろん外でも決められた場所ではしか吸うことができなくなりました。そうした中、千代田区の喫煙場所の情報をみんなに知ってもらいたいと思い、5月に喫煙所をメインとした位置情報共有アプリを開発しました。また、トイレの位置情報も登録できるようにしました。アプリをリリースして2か月程度経過しており、今後は千代田区の人と交流しながらもう少し地図を充実させたいと思っています。
応募用紙を作成した時点ではまだできていませんでしたが、水の給水スポットを新たにアプリに登録しました。なぜ水かという東京都の水道水は普通に飲めるということを知らない人が多く、友人の中には水道水を飲まない人が多いからです。水道水がおいしいという東京都水道局の発表もあり、有楽町にあるボトルディスプレイ型の水を供給している場所の情報もアプリに登録しました。今後も情報を充実させて、困ったときに活用できる便利なアプリにしていきたいです。

Q デリケートな問題ではあるが、喫煙所もトイレも清潔さや快適さとかいった点で格付けをするのも良いと思う。

A 格付けではないが、喫煙所・トイレ・水飲み場を5段階評価できるようにしている。コメントも入れられるようになっている。

Q アプリの会員登録をすると何が出来るのか。また、外国人への対応はどのように考えているのか。

A もともとアプリはインバウンド向けで作りたと思っていた。現在は英語と日本語に対応している。遅くとも来年には中国語・韓国語などアジア圏メインで対応していきたいと考えている。フリープランだとマップを見てどこに何があるか確認することができるが、ノーマルプランはそれに加えて自分でトイレの位置情報などを追加することができる。

審査会委員のコメント

千代田区は全国に先駆けて「生活環境条例」を制定し、路上喫煙防止に努めてきました。この取り組みが社会に浸透し、喫煙者の意識向上や喫煙所の整備が求められるようになりました。千代田区でも区内喫煙所の案内を作成しているのですが、「どこにあるかわかりにくい」ということが問題でした。その点、地域住民や在勤者と作り上げるこのアプリは、まちのコミュニティ作りにも役立ち、今後、より分かりやすい喫煙所マップへと作り上げられていくことでしょう。マップの中では、千代田区の公衆トイレも案内する計画とのことですので、区の方の公衆トイレの清潔さや特徴的な建築などもPRしていただきたいと思っています。



審査会委員
菊池 洋光

優美堂再生プロジェクト実行委員会

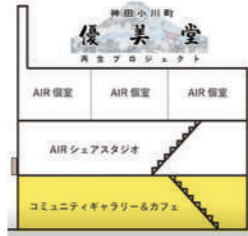
千代田の建築文化遺産と言える
優美堂を保存再生する



【代表者】中村 政人 【活動メンバー】4名 【主な活動地域(場所)】優美堂(神田小川町2丁目)

活動概要

絵画の額縁店・ギャラリーで、また住居でもあった優美堂を世界のアーティストが滞在制作するアーティストインレジデンスプログラム(AIR)を通して、地域コミュニティの国際文化交流が生まれるクリエイティブサロンとして再生する。建物は構造補強をして、木造建築を生かした工法でリノベーションする。



発表概要

神田の看板建築は非常に大事なもので、「復活再生することができたら良いな」と優美堂の壁面にある富士山の絵を見ながら考えていました。優美堂は3階建ての建物で、1階をまちに開いたコミュニティギャラリーとして、通常は作品を展示して販売するのですが、その先に人の集まる場として文化的な活動またはそうした思いがある人たちが集まるサロンのような場にします。2階から3階に関しては、海外から来るアーティストまたは地方から来るアーティストが滞在して制作する場所としての使用を計画しています。これは、通称AIR事業と言われています。優美堂の店名が記載された看板には電話番号「291-8341」が記載されており、その上には「ニクイホドヤサシイ」と書かれています。憎いほど優しさにあふれる優美堂として、ここに集まってくる人たちが気持ちを持ってふれあい、交流できる場にしたいと考えています。二次審査までには建築改修に対しても図面を作り、構造的な安全性を確保するための改修計画を立てるとともに運営に関するプログラムを計画し、準備を進めます。優美堂を再生することによって、アートがつながり、人と人の創造的かつ優しさあふれるプロジェクトを展開できると考えています。

審査会委員のコメント

神田に当たり前のようであった看板建築の町並みとそこでの人情あふれる営みも、いつの間にかほとんど姿を消してしまいました。そうした状況にあって、優美堂という富士山型の個性的な表情を持つ建物をコミュニティの文化拠点として再生させていこうとするこのプロジェクトは、今後の神田、千代田のまちづくりの新たな羅針盤となり得るものと判断しました。良く練られたプレゼンテーションビデオからは、これまでに優美堂がつづってきた豊かな物語が伝わってきました。そして、今回の取り組みを通じ、その物語の続きをぜひ見てみたい、そう思われました。資金や体制の持続性、人々の集う場所としての安全性など課題は多いと思います。計画の詰めを期待しています。



審査会会長
中島 直人

Q & A



Q 今回のプロジェクトの先進性あるいは新しい挑戦というのはどこにあるのか教えてください。

A 優美堂の存在自体が貴重である。優美堂に声をかける際に、直接面識がなかったので手紙をシャッターの隙間に置いて、2、3か月回答を待つというような交渉を行った。出会ってお話できたときには、解体計画が決まっていた。千代田区は個人商店が成り立ちにくい街になっているという危機感がある。

Q 地域に対してどのようなインパクトや影響をもたらすと考えているのか。

A 消えつつある記憶を大切に、地域のコミュニティに資する場所になる雰囲気を作る。応募用紙に記載のとおり、優美堂クラブ(仮称)を作り、クラウドファンディングも実施しようと考えている。その応援のリターンとして、クラブに入るとコミュニティの形成につながるような仕組みを作りたい。

Q 建物整備費はどのように調達するのか。また、街路樹が建物の目の前にあるが、富士山を復元し、どのように見せようと考えているのか。

A 街路樹はどうしようもないので、両脇がビルに挟まれたその隙間に富士山が見える角度にするかしかない。整備費用は、クラウドファンディングと自己資金を投入する。5年の間で回収もしくはプラスマイナスゼロにできれば良いと考えている。

会長総評

皆さんの発表や議論、ほかの審査会委員の意見から、私もまたいろいろなことを学ぶことができました。今回は第20回ということで、審査会の仕組みはあまり変わっていませんが、応募するグループの傾向とかテーマが時代とともに変わってきていて、緩やかに変化していきと思っていました。それが、今回は新型コロナウイルスの影響で、かなり大きな変化があり、第20回という節目の回は大きなターニングポイントだと思っています。

言うまでもないことですが、活動の方向性は2つあり、1つはもちろんオンラインのことで、本当に皆さんが真摯にどんな活動ができるかを考える中で、オンラインに積極的に取り組み、その中でできる可能性について、いろいろ提案していただきました。特にちよものメンバーが口にしてきた攻める姿勢は、ほかのグループにも同様に感じられました。オンラインで攻める姿勢というのはありますが、神田でパンダは、オンサイトで質疑応答も屋外で行い、とてもパワーがあったと思います。

もともと応募グループがウェブサイトを作る話は多くあったのですが、コミュニケーションのところでオンラインの良さ・利点を生かしていくというその傾向は、今回の新型コロナがなくてもこのような形になっていたと思います。審査はあくまで計画で評価しましたが、実際にこの一年間の活動では、本当に攻める姿勢を見せてほしいと思います。一方で、朝比奈委員が述べていたようにオンラインについては、少し慎重になる必要があります。このような状況下ですが、オンラインとオンサイトを組み合わせて、可能な限り最大限の活動をしてほしいと思います。

今回の審査会は「ヒマナユスタジオ」のシステムで開催することができました。IT やオンラインの技術は、本当にこれからの私たちの生活において、非常に大事な力になると感じました。

もう1つ、奥村副会長も述べていたようにアートとデザインをテーマとした活動が多く出てきた気がします。その応募の多くは、アーツ千代田3331の関係者の方でした。それも「一般」「はじめて」「普請」のすべての部門に応募があり、大きな変化だと思いました。

それ以外でもアートに近く、非常にデザイン性が高いグループとして「スプーン・プロジェクト」が行ったプレゼンには非常に驚きました。やはり、アートやデザインは、まちづくりの中で求められています。特に新型コロナで人間的な活動が制約を受ける中、応募されたグループはこれまで以上に創造性を持って、活動をしていただきたいと思います。やはり、千代田にとってアートとかデザインはとても大事な要素・強みだと思います。そのような活動が今後どんどん増えていくと感しています。今回助成対象になった皆さんの活動が歴史を作り、また、どのような成果を出すかによって、今後の流れが決まってくると思います。

今回の応募グループを引きつけた1つの力は、今までと違うポスターを作成した島田さんのデザインによるもので、まちサポのイメージの変化につながったのかなと思います。また、これにより、若い人やアートセンスのある方にも届くようになってきていると思いました。そういう意味では、第20回という記念すべき年に変化が1つ見られました。

もちろん、今までの大事な「まちサポ」の伝統を引き継ぎつつ、新しい変化というものも引き続き応援していきたいと思いました。

本当に皆さんの活動に期待しております。
本日はお疲れさまでした。

審査会会長 中島 直人

★ まちサポ トピックス!

「神田珈琲園再生」プロジェクトチーム (第18回普請部門 助成グループ)

リニューアルオープンまでの経過について報告がありました。



▲ 令和2年7月にリニューアルオープンした神田珈琲園

島田 祐輔 さん

(第20回まちサポ募集ポスター・チラシ採択者)

コンペティションで採択されたポスター・チラシのデザイン等について説明がありました。



▲ 募集ポスター・チラシ

※なお、本号の写真の一部は、島田さんに提供していただきました。

Map

活動マップ



江戸長唄ごひいき衆
(千代田区立九段生涯学習館)



M. Alive Place
(神田エリア)



トナリ
(アーツ千代田3331)



サンサン会
(富士見区民館など)



スプーン・プロジェクト
(インド大使館など)



「着がえる家」実行委員会
(海老原商店【神田須田町2丁目】)



文人の作品を
・朗読
・一人芝居
・ゆかりの場所
を散策
街のことを
知っていただ
イベント

ちよだ番町一丁目一番地
(番町エリア【番町文人通り、
カフェ・アマルフィ】)



ドコヒロ隊
(千代田区全域)



ねじの回転
(麹町区民館、千代田区立九段生涯学習館)



ちよとも
(千代田区高齢者総合サポートセンター・
かがやきプラザ 相談センター)

優美堂
再生プロジェクト
実行委員会
(優美堂【神田小川町2丁目】)



グリーンネイバーフッド千代田を目指す会
(日比谷公園など)

神田でパンダ
(神田錦町キンキン広場、神田警察通りなど)

